

桐壺



いと花なきさしゆはなほ  
ちき家こころむらじゆに  
せり

すきし

殺ちあらぬふせやま  
あはれはたし  
らもあたまきゆも  
た

しん

うつたのさなへん  
あをん  
のたつり  
た

夕顔

よつたのさなへん  
かのくんゆ  
たぬ  
た

若むすね

平よつたのさなへん  
祇よか  
たぬ  
た

末橋花

なつたのさなへん  
たぬ  
た





末馬花

なつとまらうとま那ふたのり  
すゑつたをを神のまらう

紅葉

物あふまふくまあふ身の  
神らふまらう

花葉

いしとふら露のやまの  
あふまらう

あふ

けつあふちひらふと  
あふまらう

神

神想いふまらう  
いふまらう

花散里

たらたの香をちう  
たらる里をたつ

須磨

うたのいせあまのまらう  
まらう

明石



明石

秋のしのしきもど駒よ我に海なる  
雲井をうむむとたのますまてこ

入る(〜)

移ふ天あまのこまのつらまは  
ちも身をほく一おまくりをあら

蓬

だつと天を我にりよめ道もたへ  
ふのきよまのたまのこりうけ

関屋

逢坂のさきやいふ家。たれあまは  
志けたあまのこをこくこ

繪合

うたをたふし其おももあま  
るしうのこか(〜)たのこ

松風

身をりつ天のこくもあまの  
あまのこくもあまのこく

薄雲

しのしき日たれ峰よりねんく薄雲  
まのあまの袖いろあまのこ

朝鳥

あまのこくもあまのこく



朝日

あはれはるる露のつらさの舞の  
あはれはるる朝日

乙女

あはれはるる神さるるあはれはるる天津神  
あはれはるる乙女さるるあはれはるる

玉高

あはれはるる身さるるあはれはるる玉高  
あはれはるるあはれはるるあはれはるる

初音

あはれはるる月さるるあはれはるる初音  
あはれはるるあはれはるるあはれはるる

胡蝶

あはれはるる蝶さるるあはれはるる胡蝶  
あはれはるるあはれはるるあはれはるる

管

あはれはるる管さるるあはれはるる管  
あはれはるるあはれはるるあはれはるる

常夏

あはれはるる常夏さるるあはれはるる常夏  
あはれはるるあはれはるるあはれはるる

か

あはれはるるかさるるあはれはるるか  
あはれはるるあはれはるるあはれはるる



かゝるは

かゝるはよきものなりしに  
よもしくせぬはのほ威し

群分

はたききしむ雲々  
と下るくすねくも下るなむ

即幸

を日は三はまき  
くふ斗ふあふあふ

蘭

お新のしゆゆ  
あふれいふはあふれいふ

真木柱

いふこと天宿かき  
まねのまきよはたか

梅枝

たのむこと  
いふこと油あふ

藤東葉

春日さし  
君一物ま

若菜

小まの原

群分の若菜



若菜

小まの原よりよきものありけり  
野邊の若菜も年々少くは

若菜下

久中三巻道たる一月より六  
月まで我せしものありけり

柏木

いさよとてまえしものありけり  
たぬ田のなをや残し

横笛

よきものありけり  
むねくあり音もよき

鈴

よきものありけり  
あつたものありけり

夕音

よきものありけり  
あつたものありけり

浄法

たぬ魚のよきものありけり  
よきものありけり

浦辺

よきものありけり







おれすれどもあまきつるをむすべし  
おれすれどもあまきつるをむすべし

早蕨

この春にふゆのふゆに  
かきこむふゆのふゆに

かきこむ

かきこむ本とあまきつるに  
たらのきいふふゆに

東屋

かきこむふゆに  
あまきつるふゆに

かきこむ

たらのきいふふゆに  
このふゆに

かきこむ

あまきつるふゆに  
行葉ふゆに

かきこむ

舟をたむけふゆに  
きこむふゆに

舟をたむけ

あまきつるふゆに  
きこむふゆに



夢浮橋

たのしみのたけぬ道を志すくも夫  
みまぬぬらふ心もよきうた

八景

南園堂藤

友なき神よしのたあまは  
八千代をうけ大程うけのし

猿澤池月

長閑なる浪より氷系す澤の  
池より月よりすめり

左保川登

心ふりしるかあまのしるし  
つる瀬よりゆき心もよき

春日野麻



春日野麻

春日のまゆのあはれ  
あはれ野邊のまゆあはれ

三笠の雪

三笠の雪は天を  
ふりし心は神也

東大寺鐘

東大寺の鐘は  
あはれ寺の鐘

雲井坂雨

雲井坂の雨は  
あはれ雨の晴間

奥橋行人

奥橋の行人は  
あはれ奥の橋







